



要支援・要介護になっても

# ハタラク ガイド

写真：「ハタラク」の様子。

左上から、お寺掃除、ラベル切り内職、  
DM 配達、箱組み立て。

## contents

- ・なぜ、社会参加なのか？
- ・岡山市総合特区 高齢者活躍推進事業  
～対談～「ハタラク」は私たちの未来の選択肢を増やしてくれる
- ・2022 年度 モデル事業所「ハタラク」活動報告会  
デイサービスセンターどんぐりハウス、デイサービスセンター操風  
デイサービスセンター青い宙、ツクイ岡山原尾島
- ・「ハタラク」モデル事業 実施中！  
プロジェクト実施例、協力先企業・団体紹介

2023年度版



岡山市  
OKAYAMA CITY



## なぜ社会参加なのかなのか？

社会参加活動・はたらくには、一体どのような効果があるのでしょうか。

活動をはじめた本人が、以前よりずっと元気になったということがよく聞かれます。活動が意欲や心身機能の維持・向上につながっていると考えられます。また、本人の変化を通じて、家族の喜びや介護負担感の軽減、地域住民にとつての希望、事業所スタッフのやりがいもたらされることもあります。

賃金労働や有償ボランティアに限らず、誰かのために、何かのために日々することを「はたらく」ととらえると、地域の中には多くの仕事があり、できることが潜在しています。

こうした活動は、介護事業所内のアクティビティの1コマという意味合いを超え、地域社会全体に様々な波及効果があります。利用者が、その思いを活かして社会参加活動に取り組むことで、地域における人と人のつながり、生態系に変化をもたらされます。

### 本人（利用者）の声

小学校ボランティアなどの社会参加活動を通して、今は体がいうことを聞かないことも多いが、参加したいという気持ちを持つことが増えた。今後も体が動くなら色々なことに参加したい。

(80代男性・通所介護事業所)



弁当の作業（弁当箱にスタンプを押す作業）を行う事で愛着が出て、お店までお弁当を購入するために行った。

(70代女性・通所介護事業所)



### 家族の声

「折り紙や塗り絵などしたくない、自分はまだまだいろんなことができる」という父の言葉を頼りにデイサービスなどを探してきました。（他のメンバーと一緒に「はたらく姿をみて」あんな様子の父を久しぶりに見ました。本当に嬉しかったです。

（デイサービスに通う）以前は、家で暗く塞ぎ込んでいましたが、そこにいた人たちの明るさが伝染したのか、洗車という社会的なつながりが良かったのか、以前の父の明るさを取り戻していったようです。今も道に迷うことや、鬼の形相で怒ることもありますが、そんなことより友人ができたことが嬉しく思います。



←報告書全ページはこちら

出典：一般社団法人人とまちづくり研究所『つながる・役割・はたらく』03ページより





# 「やりたい」を実現するまでの道のり

介護事業所の中には、「社会参加活動」と言われても、何をすればいいのか イメージできないところも少なくないと思います。全国の事例を通じて、利用者の参加・はたらくの実現・継続には、どのような道のりがあるのかをまとめました。

## 1 そもそも、何をすればいいのか？

ひと口に社会参加といっても、本人の想いや希望、要介護度も異なり、有償ボランティアから家庭内での役割や買い物等しごとのタイプも様々です。活動内容ありきではなく、本人との話の中から、想いと「やりたい」を実現するための活動を一緒に考えていきます。

## 2 地域でしごとや役割を見つけるには？

利用者が得意なことやできることを起点に、地域の中でそれができる場所や仕事を発注してくれるところを探します。一般企業や商店、自治会などに尋ねてみることもできますし、関連法人などがあれば、そこで探すこともできます。最初は無償でスタートし、信頼関係を築く中で、謝礼を支払う有償ボランティアに移行するケースもあります。

## 3 外に出て、人員は大丈夫？

従来の運営方法のまま、それに加えて、外に出る活動をする介護スタッフが足りなくなるといふ懸念もあります。しかし、実際に活動をしている事業所では、室内も外でも、利用者にできることを積極的にしてもらおうと、こうした問題は起こっていません。社会参加を進めていくには、「してあげる」型の運営体制から脱却する必要があります。

## 4 謝礼が発生しても大丈夫？

介護保険サービスの利用者が、社会参加活動を通じて、有償ボランティアとして謝礼をもらうことは認められています。ただ、現段階ではそれほど多く事例がある訳ではないので、地域によっては前例がなく、消極的な解釈がなされる場合もあります。金銭などを発生させず、地域通貨のようなポイント制にする方法をとっているところもあります。

## 5 家族・ケアマネ・保険者はどう思うだろうか？

社会参加活動は、自立支援という介護保険の本来の目的に沿ったもので、自治体の中には、積極的に推進しようというところもあります。ただ、活動内容によっては慎重な判断がなされる場合もあります。活動の目的や他の地域の事例なども伝え、丁寧にコミュニケーションをとることが大切になります。

## 6 継続発展させていくには？

社会参加活動は、利用者の意欲や活動性が増すきっかけになります。介護サービスの利用時以外の、社会活動や就労などにつながるケースもあります。活動をより発展させていくために、就労継続支援との連携や、一般の企業活動の中に位置付ける動きもあります。



出典：一般社団法人 人とまちづくり研究所『つながる・役割・はたらく』05 ページより

要介護になっても、生きがいをもって暮らし続けられる地域社会づくりを

介護事業所・地域・企業が協力して実現する

岡山市の高齢者活躍推進事業

岡山市では、2013年から、高齢者が、介護が必要となっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域社会の構築をコンセプトに、在宅介護を推進する総合特区事業「AAA（トリプルエー）シティ岡山」を実施しています。「高齢者活躍推進事業」は、この特区事業の一環として行っています。

「高齢者活躍推進事業」は、通所介護事業所が、意欲と能力のある利用者に対して、地域社会とつながる「就労・社会参加活動」を介護保険サービスとして提供することを旨とする取り組みです。2018年7月に、国は介護事業所において地域での社会参加活動を実施する場合の留意点をまとめ、全国に周知していますが、あまり広がりを見せていません。そこで岡山市では、行政が主導して取り組みを推進することとしました。

事業所や企業と連携を構築

2021年度から、下記の図のように

事業を進めています。モデル事業所となる介護事業所において、利用者が就労・社会参加活動を実施できるように、福祉関係機関のご協力もいただきながら、研修会や先進事例学習、ワークショップ等を行いました。要支援・要介護者の生きがいや地域とのつながりの必要性を、企業や団体、地域組織と連携して、取り組みの意義を正しく理解してもらいながら、市内の事例を創設しています。

地域の人の活躍の場を増やす

2023年度も引き続き、実施事業所を選定し、市内の事例を積み重ねていきます。

本事業を継続していくことで、認知症の人を含めた要支援・要介護高齢者の方の想いを大切にし、地域の関係機関や地元企業が協力しながら、誰もが地域の一人として、自分の役割を持って暮らし続けていくことができるまちづくりを進めていきます。

事業の流れ

事業セミナー開催



市内デイサービス向けに事業の意義や事例についてセミナーを開催します

モデル事業所を選定



社会参加活動の実施に意欲の高い事業所を選定します

事業の考え方を共有



事業実施の趣旨や実施にあたってのポイントを関係者が集まって共有します

「ハタラク」探し



当事者本人の願いに寄り添いながら、「ハタラク」を探します

「ハタラク」実施



実施環境が整った「ハタラク」を実際に実施してみます

TV放送  
されました！



KSB 瀬戸内海放送のニュース（令和4年6月28日(火)放送）で事業が取り上げられました。

YouTube「KSB 瀬戸内海放送」チャンネルで閲覧できます。

【特集】要介護者が地域で仕事やボランティア

岡山市の新事業「ハタラク」とは

<https://www.youtube.com/watch?v=z-z2u11hjKw>





# 「ハタラク」は私たちの 未来の選択肢を増やしてくれる

高齢者活躍推進事業と一緒に進めてきたまちづくり仕掛け人の猿渡さんとプロジェクト担当者が、「ハタラクプロジェクト」の歩みと未来に向けて語り合いました。

## なぜ、要介護の人も はたらける社会が必要なのか

**猿渡**：…ずばり、要介護の人が「ハタラク」という事業を、岡山市が導入する理由は何でしょうか？

**中島**：…20、30年先の社会では、高齢者が増加し、認知症の人が小学生の数を上回る将来予測も出ています。誰もが避けて通れない超高齢社会に向けて、認知症の人も含めた、地域全ての構成員でまちづくりを考えていくことが不可欠です。立場や垣根を越えて行動するため、誰もが活躍できる事業として「ハタラク」を導入しました。

**猿渡**：…他の地域の事例と比べ、岡山市の動きの早さに驚きました。

**中島**：…特区事業が大きいかもしれませんが、市民の方と一緒に事業を進める形で、僕ら行政と介護セクター、企業や団体と動くことができました。加えて、まちづくり研修会に、事業所のみなさんと二日間みっちり参加して話し込むなど、単なる指導する行政と受ける事業所ではない一体感を作れたことも要因でしょうか。



## 「次の当たり前」のため 硬く閉じたフタをあけたい

**猿渡**：…すぐに理解してもらおうことが難しい事業で、新しい当たり前をうみだす作業だと思いますが、中島さんが考えた戦略や突破口はありましたか？

**中島**：…プロジェクト関係者の考えを同じ土俵に乗せることに時間をかけました。要介護の人もはたらくという、「マインドセット（固定概念の見直し）」ができるように、一気にエンジンが掛かった印象があります。正直、私自身が他県の「ハタラク」へ視察に行くまで、本事業の真意が腑に落ちなかったのですが（笑）。自分の目で見ると、これかと理解し動けるようになりました。ですので、現場を見てもらうこと、プロセスを知る専門家とタッグを組むことで、地域全ての構成員を巻き込むことができるのではないかと考えました。実際、外部専門家に会議に入ってもらうと、地域みんなの本気度が上がりました。



## 事業所・企業を地域の仲間

**猿渡**：…岡山市の「ハタラク」のモデル事業に参加する事業所や企業の特徴は、どのように感じていますか？

**中島**：…この人たちのために挑戦したい、という対象者が明確な場合は動き

が早いです。事業の悩みや課題が、「ハタラク」導入によって解決するイメージがピタッとはまるケースもありました。こういうプロジェクト面白そう、この手があったか！と共感する企業の業種は、想定よりも幅広いと感じます。企業は、社会貢献の具体的なイメージがわかず行動できない所も多いようです。福祉との付き合い方、住民の仕事を増やす関わり方も社会貢献になります。その活動は、会社や私たち市民のためにもなるという将来イメージを共有したいです。

## 未来の岡山市が変化するために

**猿渡**：…介護保険や地域包括ケアなど制度はあるものの、社会が使いやすいイメージとして「まちの設計図」がない、ということでしょうか。今回、地域でつながった人々たちで、まちづくりの地図を描いていけたら、より面白くなりそうです。

**中島**：…そうなんです。何かやりたくてウズウズしている団体が多いことも、今回、わかりました。モデル事業をきっかけに、そういう団体に活用してもらいたいですね。将来、市内に普通に「ハタラク事業所」があつて、地域にニコニコ通いたくなる所が増えて、ハタラク選択肢がたくさんある岡山市になると思います。

**猿渡**：…私たちの仕事は、人々の暮らしを支える「新しい当たり前」をつくること。これからもチャレンジしていきますしよう！



**中島 悦吾**  
岡山市 保健福祉局 保健福祉部 医療政策推進課 医療福祉戦略室 室長。経済局 商業振興課、経済産業省 出向、東京事務所、企画局 情報政策課、政策局 事業政策課などを経て現職。



**猿渡 進平**  
岡山市総合特区事業高齢者活躍推進事業プロジェクト外部専門家メンバー。医療法人 静光園白川病院 医療連携室 室長。大牟田市地域包括支援センター、厚生労働省 社会・援護局の出向などを経て現職。





## 2年目のハタラク 市内4事業所へ広がる 活動の更なる深まりへ向け 経験を共有

2023年3月、岡山市内でハタラクを実践するモデル事業所の4団体が集まり、今年度の活動報告会が行われました。

報告会には、岡山ふれあい公社、地域包括支援センター、社会福祉協議会や市役所などの職員も参加し、各団体の活動を知るとともに、地域全体でハタラクをどのように推進するかが話し合われました。

各団体からは、本事業を実施することで、これまで施設内で完結していた利用者の生活が、外に出て近隣地域と関わる機会が広がり行動的・意欲的になったという意見が多く上がりました。地域側の反応では、草取りや内職など、丁寧な仕事に評判になったこと、それにより、意欲的にデイサービスに来る利用者もいます。

活動を進めていく上での課題としては、利用者が関わって作った商品などをどのように販売につなげていくのかといった販路に関するものが出てきました。

報告を聞いていた参加者からは、障害者の作ったものを売るための販路があるので、そうした場を利用してはどうかといったア

ドバイスもありました。また、商品づくりや手を動かす作業だけでなく、認知症の人であれば、学校で子供たちに向けて、認知症に関する体験を語ってもらうというのでも、大きな役割になるのではないかと意見も出てきました。

今後は、ハタラク事業所内で、自分の施設ではうけることができないうハタラクを共有したり、広報活動に力を入れて活動を発信していくなど、既存団体との連携を強化していく予定です。

モデル事業によって、要介護になっても、認知症になっても、役割があることで元気に暮らせる事例が増えてきました。今後も、岡山市内にモデル事業所が増え、生きがいをもって暮らし続けられる地域になるように、実績を積み上げていくこと、目標を新たにしました。





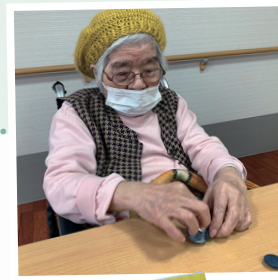
## デイサービスセンター どんぐりハウス



管理者  
早見満暁さん



事業2年目ですが、利用者本人のやりたいことを、地域を通してどう実践するか、を常に考えて取り組んでいます。それには、その人のこれまでの人生を理解することが重要だと思います。例えば、お金にシビアな人はハタラクで得たお金で、子どもにプレゼントを買いたいと意欲的になりました。ある人は、お寺でお坊さんから御礼を言われるのが嬉しいと、熱心に清掃活動をしています。この活動に関わる利用者は、誰かのために意欲的になり、症状が進みにくく感じている所です。



管理者  
真木優子さん

## デイサービスセンター 操風

ハタラクも2年目に入り、地域のイベントや病院売店で販売する小物などを作成したり、公園清掃など継続しています。この取り組みは、いかに地域とつながるかが大事だと思っています。町内会などに参加して、つながりを持つことを意識するようになりました。地域の中で販売した商品がお金になると、良い表情になる利用者さんも多いです。今の活動は何のためか、自分の中で目的意識を持つて生活するようになってきた利用者が多いと感じています。



管理者  
石田京子さん

## デイサービスセンター 青い宙

昨年からはじめましたが、小さな事業所なので、「こんなんでしょうか」というけど、どう?と利用者へ確認して、何をするか決めていきます。地域のお祭り、バザー出店などです。力を入れているのは、バザーなどで販売する商品作り。牛革バック、コサージュやマスクなど、デザイン性も考慮した売れやすいものを、楽しみながら作りしています。利用者と一緒に販売すると、反応もわかります。次に何をしようかと意欲が高まります。次のハタラクにつながり、良い流れだなと感じています。

現在、ハタラクの開始に向けて、準備中です。施設内だけでなく、職員も利用者も、一緒に外へ出て笑顔になる活動がしたいと思っています。市内のハタラクの事例を利用者に話すと、とても楽しみにしているので、新しいチャレンジを職員と一緒に楽しみたいと思っています。

## ツクイ 岡山原尾島



所長  
白方勇氣さん





岡山市初!

# モデル事業で「ハタラク」実施中!

2022年3月から、モデル事業における「ハタラク」の実践がスタートしました。ハタラクを依頼する企業、受注する事業者、実施する高齢者の3者により成立しています。



「ハタラク」依頼

企業・団体

- ・自然な「見守り」高齢者
- ・認知症への理解
- ・地域包括ケア



「ハタラク」受注

介護事業者  
デイサービス



- ・職員のスキル向上
- ・職員のやりがいアップ
- ・地域社会での存在感
- ・介護のイメージ刷新



「ハタラク」実施

要支援・要介護  
高齢者



- ・仲間・地域とのつながり
- ・生きがい・役割
- ・収入獲得
- ・在宅生活維持



店舗周辺草取り



お寺掃除



公園清掃



バザー販売商品作り



ダイレクトメール配達



ラベル切り内職



介護用品作り

## 協力先企業・団体

- ・生活協同組合おかやまコープ
- ・株式会社フジミツグローブ
- ・ヤマト運輸株式会社 岡山主管支店
- ・公益財団法人操風会 岡山旭東病院
- ・株式会社岡田商運
- ・上寺山 餘慶寺
- ・岡山市中区役所



軽作業・箱組立て